

科目ナンバー	C5205	要件	保育必修	授業形態	演習	対象学生	Ⅱ A III C D
授業科目	保育表現技術(音楽表現)						
実施期	前期 1～10回 後期 11～15回	単位数	1単位	授業者	小川純子・米田紀子・平松陽子		
【科目の概要】							
身近な自然やものの音・音色、人の声や様々な音楽・楽器に親しみ、五感を通して身体全体で感じ取ることを経験する。また、音楽あそびやオペレッタの創作を通して、子どもたちの音楽活動へと展開する方法を習得する。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	子どもの発達と音楽表現に関する知識を習得する。						1-d
イ	様々な音楽あそびを習得し、自ら子どもたちと積極的に関わろうとする姿勢をもつ。						4-c
ウ	子どもの年齢や発達に応じた音楽あそびを考え立案することができる。						3-c
エ	創作活動や様々な音楽表現活動において、わかりやすく伝える表現力を身に付ける。						2-d
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	授業内容の説明、フェスティバル発表の内容について			月 日	シラバスを熟読しておく。(0.3時間)		
2	フェスティバル発表に向けて(グループ分け、全体の計画)			月 日	出身地のわらべうたを書き留めてくる。(0.3時間)		
3	わらべうたあそび			月 日	習得したあそび歌をできるだけまとめて、「子どものあそびノート」作りをする。(1時間)		
4	様々な音楽あそび(ゲーム遊びなど)			月 日			
5	言葉を用いたあそび			月 日	日常生活の中にあるリズムに気付く。		
6	リズムを用いたあそび			月 日			
7	音楽を用いたあそび(計画を立てる)			月 日	今までの授業内容を振り返り、子どもに指導することを念頭に置きながら、音楽を使った遊びを考える。(1時間)		
8	音楽を用いたあそび(計画を練り直す)、獲得を目指す力の確認			月 日			
9	音楽を用いたあそび(グループ指導の練習)			月 日			
10	音楽を用いたあそび(グループ指導の発表と振り返り)			月 日	他のグループの指導を体験し、良いところを取り入れる。		
11	オペレッタと合唱(オペレッタや合唱を計画する)			月 日	計画したイメージを実現するため役割分担して準備する。		
12	オペレッタと合唱(計画を具体的に詳しく立てる)			月 日			
13	オペレッタと合唱(創造した内容を表現する、必要な用具を準備)			月 日	課題を見つけ解決方法を考える。どんな表現をすれば、よりわかりやすくなるか考える。(0.5時間)		
14	オペレッタと合唱(表現を工夫する、必要な用具を準備)			月 日			
15	オペレッタと合唱(創造した内容を表現する)			月 日	役割分担して発表できるように準備する。		
16	フェスティバル 発表			月 日			
【教科書・テキスト】 プリント配付				【成績評価の方法】 提出物30%、発表30%、 受講態度(積極性、意欲など)40%			
【参考書・教材】 幼稚園教諭・保育士をめざす 楽しい音楽表現 (圭文社) 実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現 (保育出版社)							
【履修要件及び履修上の注意事項】 「音楽の基礎」の単位取得を履修の要件とする。(グレード表を提出すること。) 3CDクラスは「つどいの広場」又は「ちびっこ広場」で発表する。							
【履修上の遵守事項】 30分以上の遅刻は欠席扱いとする。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先：N15(米田)、レッスン室1(平松) オフィスアワー：							

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア	子どもの発達に応じた音楽表現やあそびの展開に関する知識		様々な音楽表現活動（わらべうたあそび、ゲーム遊び、ふれあい遊び等）を体験し習得している。	乳幼児の発達段階に関する知識や指導方法を習得している。	習得した知識を基に指導方法を工夫し、音楽表現あそびを展開することができる。
イ	生活の中で音や音楽に結びつくものに興味・関心を持ち、音楽あそびに応用する力		日常生活の中で音楽あそびに結びつくものがないか、常に関心を持ち、材料や情報を収集している。	音楽あそびに用いることができる材料やテーマを考え、あそびを創作したり、実際にあそんで試したりすることができる。	創作した音楽あそびを、もっと子どもたちが楽しめるものにするために、発展させたり工夫したりすることができる。
ウ	音楽あそびに関する指導案の立案		子どもの発達に応じた様々な音楽あそびを身に付けている。	発達に応じた音楽あそびを自分たちで考え、指導案を立案することができる。	他の人やグループの発表を見て、良いところを学び、自分のものにしようとする。
エ	合唱またはオペレッタ創作における表現力		合唱またはオペレッタ創作について、子どもにわかりやすい表現方法を考えることができる。	より良い表現を目指してさらに工夫を積み重ねることができる。	発表した合唱、オペレッタを振り返り、課題を見つけることができる。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					